

2016年12月12日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部
実践「ペルソナ」研究会

実践『ペルソナ』通信 (No.33)

「女子大生の腕時計の利用実態」に関する調査結果

～女子大生の腕時計の所持率は 98 %～

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「女子大生の腕時計の利用実態」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は 45 サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」、「経営学（担当：篠崎香織）」、「マーケティング（担当：斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

今回の調査を通して、ほとんどの女子大生が腕時計を所持しており、2人に1人が週5日以上で腕時計を身につけていることが分かった。また腕時計を身に付ける理由としては、「時間をすぐ確認できるから」との回答が約7割と多かったが、購入時に重視する点では「時刻の見やすさ」よりも「デザイン性」を最も重視する人が多く、女子大生は腕時計でもおしゃれを楽しんでいることが分かった。

所持している腕時計は自分で購入するよりも「親・兄弟」に買ってもらった人が多く、腕時計には高価なものが多いためこのような結果になったと推測される。

調査結果のポイント

(1) 女子大生の 98% が腕時計を所持している

腕時計を持っているかと尋ねたところ、98% の人が「持っている」と回答した。「持っていない」と回答したのはわずか 2% で、ほとんどの女子大生は腕時計を持っていることが分かった。

(2) 2人に1人が腕時計を週5日以上でつけている

腕時計をつけている頻度を尋ねたところ、週5日以上でつけている人が半分、5日未満の人が半分であった。しかし人数の割合を細かく見ていくと週5～6日、そして週1日未

満で腕時計をつけているという人が共に12人と一番多く、週1~2日でつけている人は2人のみと断トツで少なかった。週1~2日でつけている人を除くと、あまり大きな大差は見られないため、腕時計をつける頻度は人それぞれといえる。

(3) 約7割がアナログ時計を所持している

所持している腕時計の種類を尋ねたところ、「アナログ」74%、「デジタル」24%と時刻が読みやすいデジタル時計よりもアナログ時計のほうが利用者が多いことがわかった。「その他」についてはデジタルとアナログが一緒になっているものという回答があった。

(4) フォーマルな服装にも合うシルバーが人気

所持している腕時計の色を尋ねたところ、シルバー系のものを所持している人が1番多かった。次いで、黒系・白系が12と同数であった。シルバー系の所持率が高い理由として、大学生はスーツを着用する機会が増えるため、フォーマルな服装にも合うシルバー系が人気と考えられる。

(5) 腕時計は、親・兄弟が購入した人が多い

腕時計の購入者は、「親・兄弟」が一番多く、友達や恋人が購入した人は少なかった。腕時計は高価なので、「親・兄弟」からプレゼントしてもらうのが多いのではないかと考えられる。

(6) 腕時計を身に付ける理由は時間をすぐ確認できるから

腕時計を身に付ける理由は「時間をすぐ確認できるから」が76%で一番多く、スマートフォンが普及していても、腕時計はすぐに時間を確認するために使われている。腕時計を身に付ける理由で次に多かったのが「おしゃれだから」で、女子大生は腕時計でもおしゃれを楽しんでいる。

(7) まず重視するのはデザイン性

腕時計を購入する際に重視する点を1位~3位まで順位付けをしてもらったところ、1位は「デザイン性」で57%、2位は「時刻の見やすさ」で33%、3位では「価格」が43%であった。頻繁に身に着けるものであるため、デザイン性を重視している人が多いと考えられる。

(8) 自分で腕時計を購入する予算は5,001円~20,000円

自分で腕時計を購入する予算を尋ねたところ、5,001円~10,000円、10,001円~15,000円、15,001円~20,000円がほぼ同数であった。自分で時計を購入する場合は20,000円以内で収めることがわかった。

(9) 使える金額が多いからと言って、腕時計の所有数は多くない

1か月に使えるお金に余裕があるからといって、それが腕時計の所有数に反映されるという結果はでなかった。腕時計にお金をかけるかは、所得というよりも気持ちの面での個人差があると推測できる。

調査結果について

<調査概要>

調査対象	実践女子大学渋谷キャンパス在学生
調査方法	調査票調査
調査期間	2016年10月21日～2016年10月25日
有効回答数	45人
回答者の属性	【学年】3年生：100%

<本調査担当チーム>

実践女子大学人間社会学部「ペルソナ」研究会

3年 阿部杏子

3年 海老島優花

3年 鈴木奈々子

3年 楚良彩音

3年 富川未夢

調査結果データ

(1) 女子大生の98%が腕時計を所持している

腕時計を持っているかと尋ねたところ、98%の人が「持っている」と回答した。「持っていない」と回答したのはわずか2%で、ほとんどの女子大生は腕時計を持っていることが分かった(図1)。

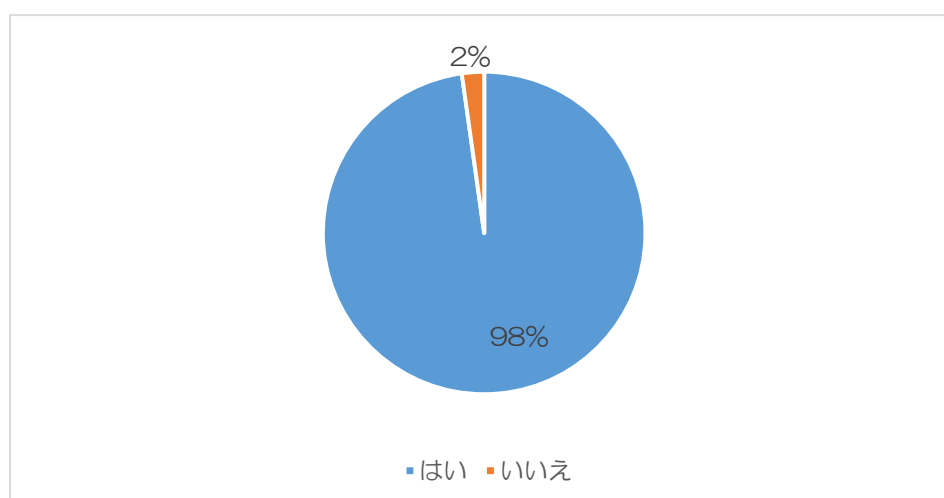


図1. 腕時計の所持率 (N=45)

また、腕時計を持っている人のうち、今現在何本の腕時計を持っているかと尋ねたところ、平均が 1.7 本、最大値が 3 本となり、2 本（19 人）、1 本（14 人）、3 本（9 人）の順で腕時計を持っている人は、2 本が最も多いことが分かった（図2）。

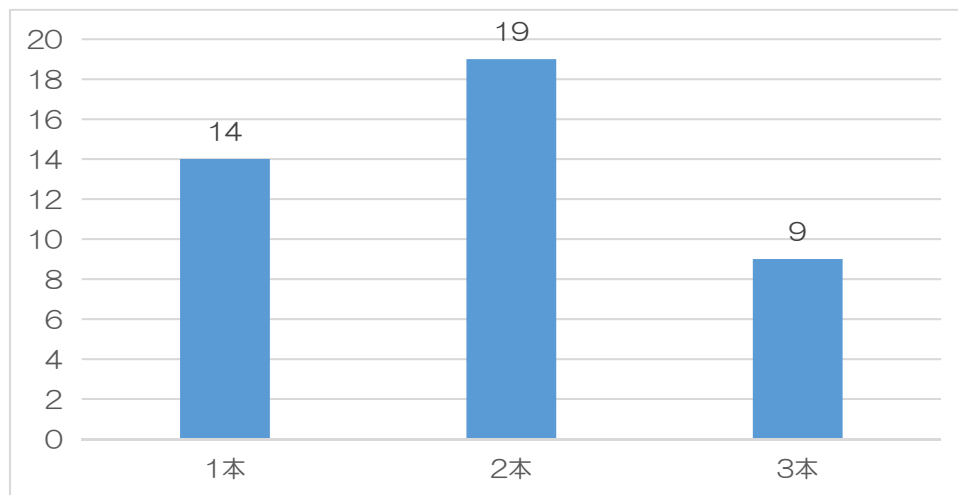


図2. 腕時計の所有数 (N=42)

(2) 2人に1人が腕時計を週5日以上でつけている

腕時計をつけている頻度を尋ねたところ、週5日以上つけている人が半分、5日未満の人が半分であった。しかし人数の割合を細かく見ていくと週5～6日、そして週1日未満で腕時計をつけているという人が共に 12 人と一番多く、週1～2日をつけている人は 2 人のみとずば抜けて少なかった。週1～2日をつけている人を除くと、あまり大きな大差は見られないため、腕時計をつける頻度は人それぞれである（図3）。

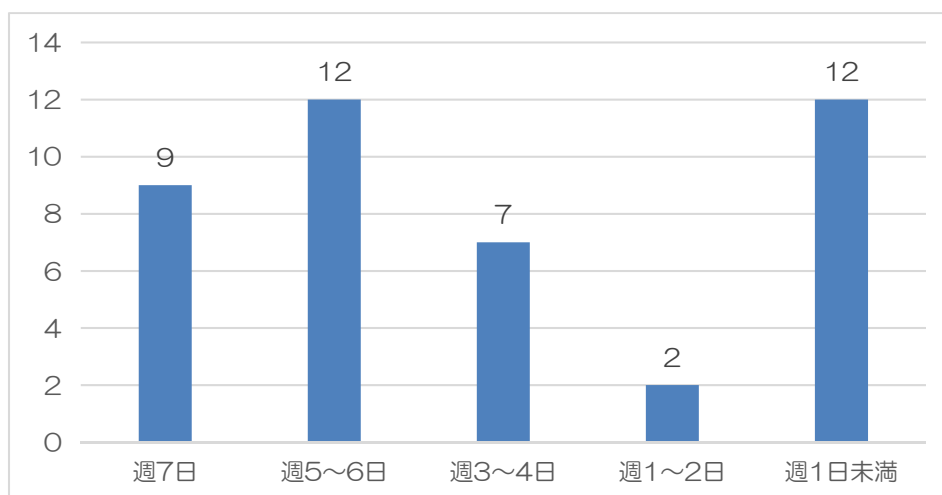


図3. 普段腕時計をつける頻度 (N=42)

(3) 約7割がアナログ時計を所持している

所持している腕時計の種類を尋ねたところ、「アナログ」74%、「デジタル」24% とアナログ時計のほうが、利用者が多いことがわかった（図4）。「その他」についてはアナログとデジタルが兼ね備えられている時計との回答があった。また、デジタルかアナログ（デジタルとアナログを含む）以外の種類の時計は持っていなかった。

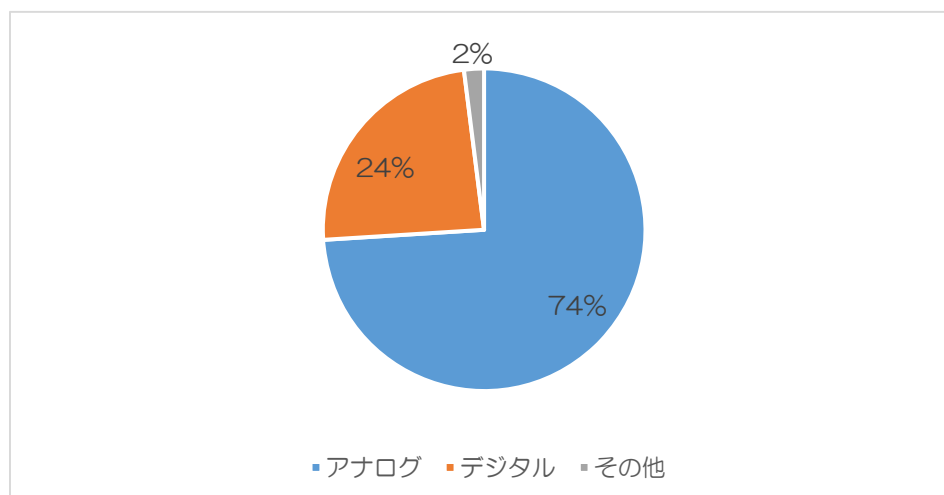


図4. 所持している腕時計の種類（複数回答）(N=44)

(4) フォーマルな服装にも合うシルバーが人気

所持している腕時計の色を尋ねたところ、シルバー系のものを所持している人が1番多かった。次いで、黒系・白系が12と同数であった（図5）。シルバー系の所持率が高い理由として、大学生はスーツを着用する機会が増えるため、フォーマルな服装にも合うシルバー系が人気と考えられる。「その他」の項目はピンク色・黄色・赤色など明るい原色のものがあげられた。

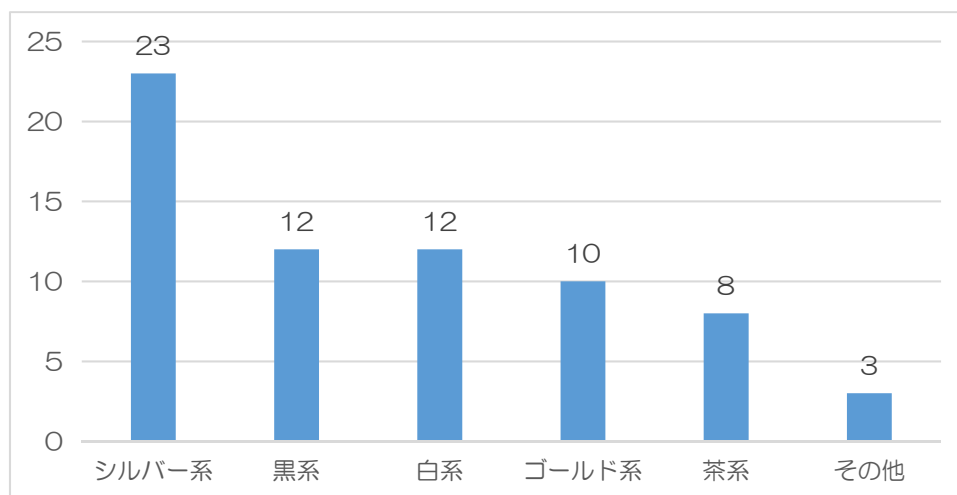


図5. 所持している腕時計の色（複数回答）(N=44)

(5) 腕時計は、親・兄弟が購入した人が多い

腕時計の購入者は、親・兄弟が一番多く、友達や恋人が購入した人は少なかった。腕時計は高価なので、親・兄弟からプレゼントしてもらうのが多いのではないかと(図6)。

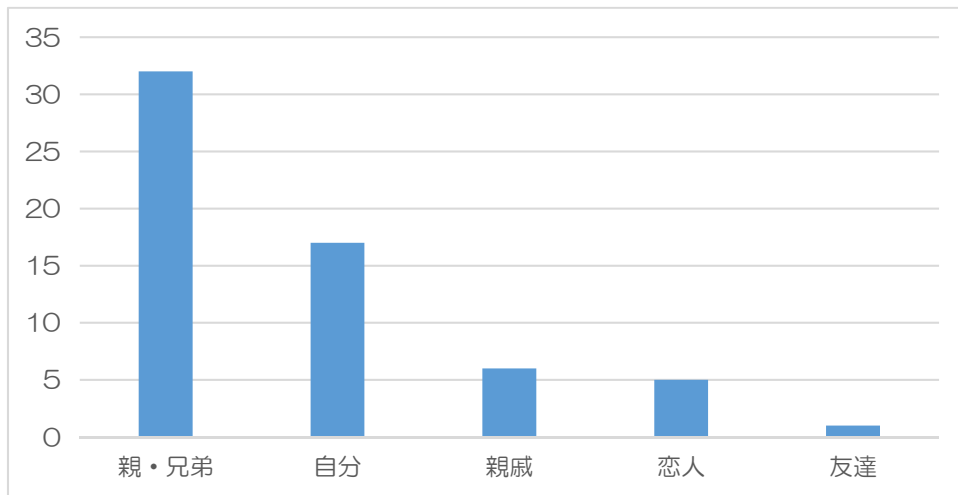


図6. 所有している時計は誰が購入したか(複数回答)(N=42)

(6) 腕時計を身に付ける理由は時間をすぐ確認できるから

腕時計を身に付ける理由は「時間をすぐ確認できるから」が76%で一番多く、スマートフォンが普及していても、腕時計はすぐに時間を確認するために使われている。腕時計を身に付ける理由で次に多かったのが「おしゃれだから」で腕時計でもおしゃれを楽しんでいる事がわかった(図7)。

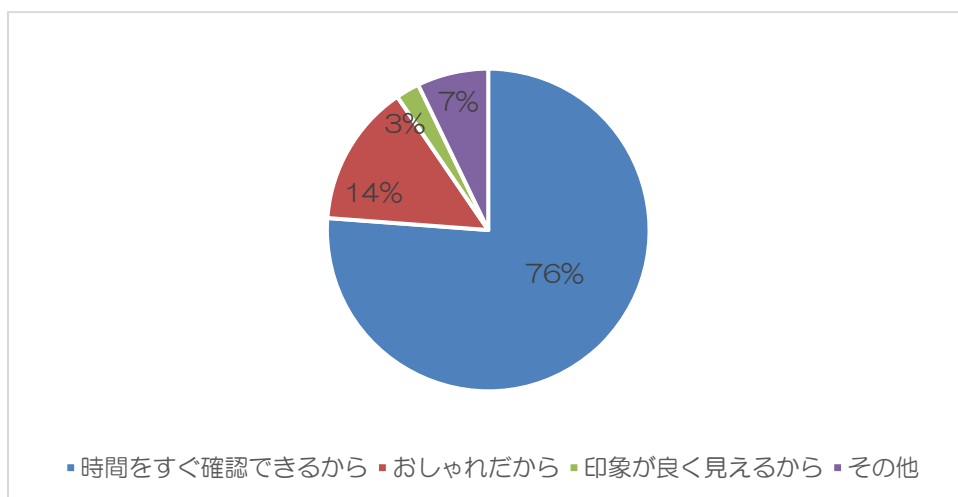


図7. 腕時計を身につける理由(N=42)

(7) まず重視するのはデザイン性

腕時計を購入する際に重視する点を1位～3位まで順位付けをしてもらったところ、1位で多かった回答は「デザイン性」で57%であった。2位で多かった回答は「時刻の見やすさ」で33%、3位では「価格」が43%であった(図8)。頻繁に身に着けるものであるため、デザイン性を重視している人が多いと考えられる。

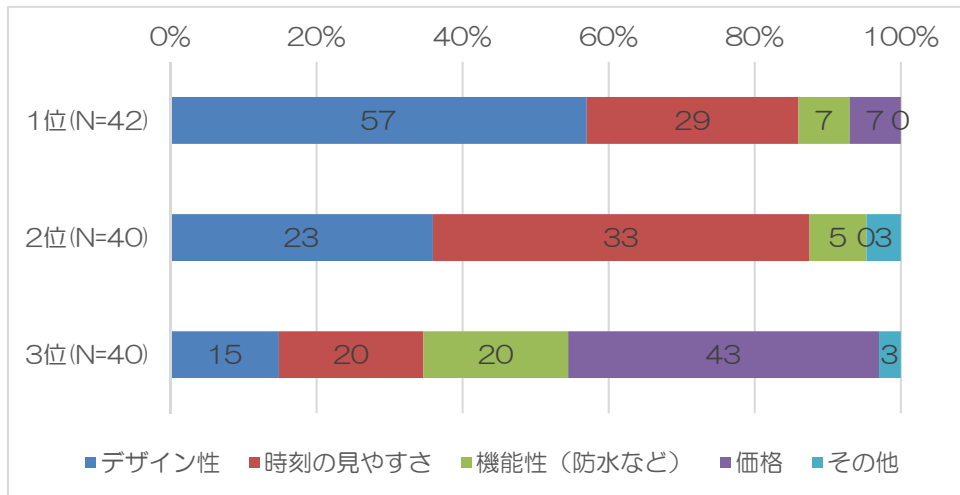


図8. 腕時計を購入する際に重視する点 (N=42)

(8) 自分で腕時計を購入する予算は5,001円～20,000円

自分で腕時計を購入する予算を尋ねたところ、5,001円～10,000円、10,001円～15,000円、15,001円～20,000円がほぼ同数であった。自分で時計を購入する場合は20,000円以内で収めることがわかった(図9)。

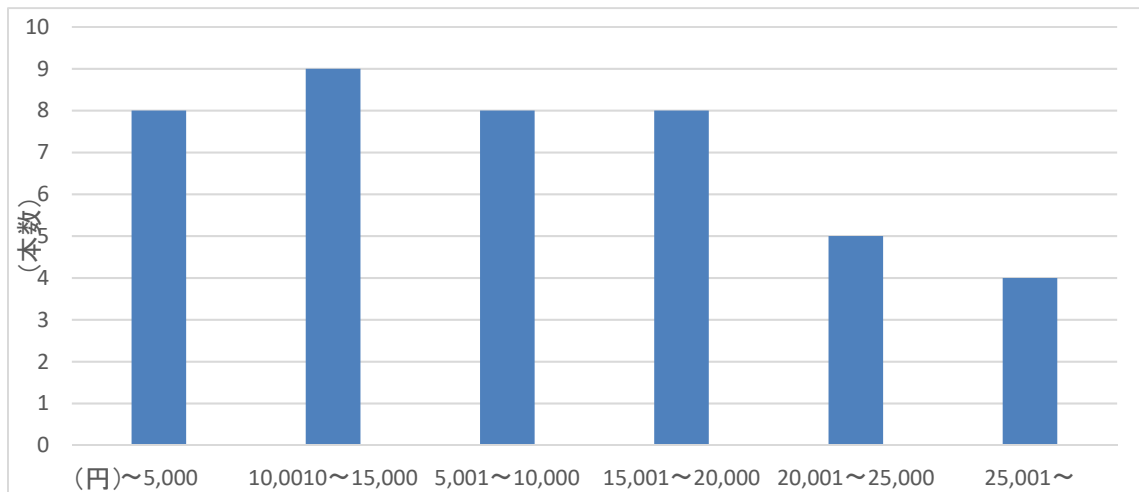


図9. 自分で腕時計を購入する場合のかける費用 (N=42)

(9) 使えるお金が多いからといって、腕時計の所有数は多くない

1か月に自由に使える金額が多い人ほど、腕時計の所有する本数も多いのではないかという仮説をたてたが、相関係数は 0.167 であり仮説は立証できなかった。お金を腕時計にどれほど費やすかは人それぞれだということだろう。なお回帰分析の結果は図 10 の通りである。

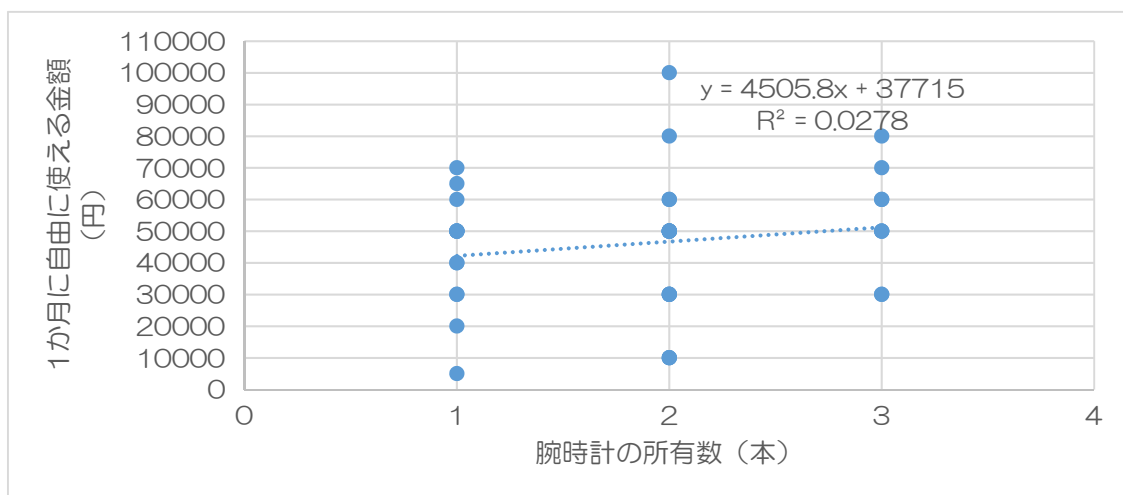


図 10. 1か月に自由に使える金額と腕時計の所有数 (N=42)

また、1か月自由に使える金額と、腕時計にかかる費用の相関についても調べてみたところ、相関係数は 0.233 と、こちらも相関がみられなかった。こちらも回帰分析を行った結果、図 11 が得られた。

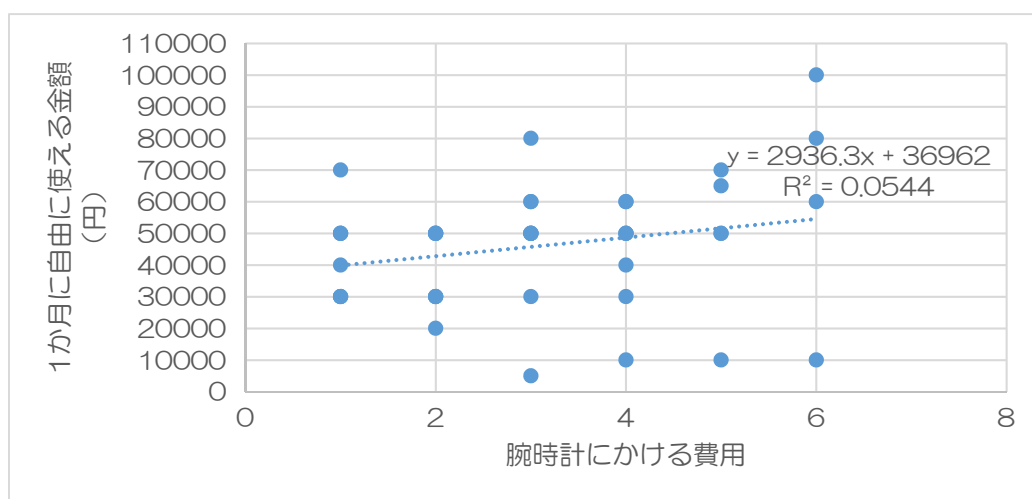


図 11. 1か月に自由に使える金額と腕時計にかかる費用 (N=42)